

学年・教科：小4・国語

単元名：「ウナギのなぞを追って」

時	活動	成果・子どもたちの様子	備考
0	<p>本単元「ウナギのなぞを追って」の事前準備として、教科書の本文を教師が音読をし、初めて読んだ後に不思議だとおもったこと、疑問におもったことを渡邊先生に送り、回答を依頼した。</p> <p>本単元の資料を授業中だけで消化するのが難しかったため、説明資料は自宅でもみられるようにしていたが、それを自主的に見ている生徒の数はとても限られている様子であった。他方、保護者が説明を加えながら、一緒に見てくださっている方もおられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、教科書を読んでも全く興味深い点が見つからなかったという子どもがいた。</li> <li>・友達が挙げる質問を聞くと、クラスから次々と質問がでてきた。また、うなぎについてのスライドを見ると、更に質問が出てきて、子供たちの興味が連鎖的にわいてくるのがわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を異なる分野を専攻とする教師、研究者が協力することにより、子どもたちの興味を多方面からひきつけることに努めた。</li> </ul>
1	<p>本単元の科学読み物に興味を持たせる一環として、うなぎの卵と似ているメダカの受精卵を顕微鏡で観たり、メダカの稚魚および成魚を実際に見せる。</p> <p>事前準備で出た質問（25項目の）に対するコメントならびに回答をウナギの研究者（渡邊先生）から受け取りクラスで読む。</p> <p>うなぎの研究をしている研究者が自分たちの質問に答えてくれたことにより、更なる質問へとつながった。</p> <p>先行授業では、グループ分けに際しては男女のグループにあつまる傾向があり純粋に知りたいと思う興味に加えて、別の力が働いていたように感じたため、興味のあることはそれぞれが紙に書いて提出し、教師が子どもたちの日本語の習熟度、発言力などを考慮して授業外にグループ分けをした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの興味が一段と高まった。</li> <li>・メダカの受精卵、稚魚および成魚を生徒たちに示したことで、ほぼ同じサイズのウナギの受精卵を広大な海から回収することの大変さを生徒たちに伝えることができた。</li> <li>・専門家から自分たちの質問を答えてもらい、普段の国語の単元には見られないほどの生徒主導的な学ぶ姿勢と意欲が見られた。</li> <li>・先行授業では、お互いの自由な発言を聞きながらグループ分けに際しては男女のグループにあつまる傾向があった。グループ分けの難しさを痛感した。</li> <li>・再編したグループでの議論の時間が十分にとれなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる疑問への回答を渡邊先生に依頼し、このうち「ウナギのなぞを追って」が執筆されて以降に新たに見いだされた情報も含む新たな追加資料を25の質問のうちから重要な7項目を選び作成した。</li> <li>・顕微鏡下でメダカの受精卵を示すことで心臓の形成の様子や血液細胞の流れを子どもたちに示し、生命の不思議についても伝えた。</li> <li>・「なぜ」、「なぜ」と言いっぱなしにしないで、ひとつひとつの疑問の答えることができた。</li> </ul>

2	<p>興味づけをした後に、共通のテーマに興味をもつ3つのグループに分かれた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家が動画で解説を加えた資料も用いたことで、教科書記載の内容には全く興味をもてないといっていた生徒も、興味の対象を見つけることができた。</li> <li>・ウナギの脳の写真や図をみて、将来医者になりたいとか、フィールドワークを含む自然科学を勉強したいといいた子どもたちもでてくるほどだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリントを参考文献、既成の教材からの再編成をすることにより、習熟度が異なる学習者に適した授業教材を模索した。</li> </ul>
3	<p>興味があった内容が同じ、又は似ている子どもたち 3~4人からなるグループ（同質グループ）に分けてグループ活動をした。</p> <p>興味だけではなく、日本語の習熟度の偏りが無いようにグループ調整をしてそれぞれのグループの中でお互いから学びあえるように配慮した</p> <p>「中」（第4~12段落）を二つのまとまりに分けて、筆記内容を習熟度にしたワークシートを用意した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループに配置したリーダー的な子どもを中心に協力的なグループ活動ができた。</li> <li>・生徒主導の学習活動が見られ、指導者は机間巡視をし、習熟度に適したサポートを各子どもたちにつづけることができた。</li> </ul>	<p>教科書に加えて副教材を多用したことで、単元本来の趣旨であった教科書に記載の内容を要約しようという焦点がぼやけてしまった。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループ内で、紹介のスク립トの作成、発表練習の時間を充実させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各グループに配置したリーダー的な子どもを中心に協力的に学びあい、教えあうグループ活動ができた。</li> <li>・書かせるだけでなく、小グループで発表の練習をしたことで、普段発表を躊躇する子どもも比較的ストレスを感じることなく、上手に発表することができた。</li> </ul>	<p>コロナ禍で数年ぶりの数人の授業参観者が出入りする授業であったため、発言量が普段よりだいぶ少なかった。</p>
5	<p>家庭学習課題 レベル2「自分で選んだ本やインターネットで科学的読み物を読んで、興味をもったところを中心に要約し、自分の考えを書き足してまとめた紹介文を書く。」を習熟度によっては難易度が高いと考え、オプションにした。</p>	<p>オプションの宿題が終わらず、クラスで興味のある科学的読み物の紹介文を読み合っ、考えを交流する活動が思うようにできなかった。</p>	
6	<p>日本にいる親戚やお友達に「うなぎのなぞを追って」の単元で学習したことを紹介するための準備として、ビデオレ</p>	<p>デバイスを使って文を書かせることで、漢字が書けなかったり単語力のない子どもたちでも手軽に検索をしたり、ボイスレコグニ</p>	

<p>ターのスク립トの下書き、又は手紙の下書きをデバイスを使ってする。</p> <p>習熟度や得意、あるいは好みにより伝えるメディアを選択する。</p>	<p>ションでタイピングをするなど工夫をして、無理なく、楽しみながら書く作業ができた。</p>	
--	---	--

伸ばせた力、子どもの変化、保護者の反応など

子どもたちの自主的な学習活動がみられ、休み時間やお弁当の時間も授業を続けたがる姿が度々見られた。保護者からも、今回の単元はとても面白かったようで、家庭での宿題をいつものように無理に強制しなくても取り組むことができていたとの報告もあった。

授業中に子供たちが協力して、お互いが得意とすること（作文、デバイスの操作、リーダーシップ、など）を発揮しあいながら学ぶことができた。その後の単元、他教科でもグループ活動することを好み、休み時間にクラスの中で一人で寂しそうにしている子どもがいなくなった。

所感

今回、一年半のオンライン授業の後、初めて担当する学年の日本語レベルが多様化するクラスでの楽しい授業づくりに煮詰まっていたところでのこのような有難い研究授業という学ぶ機会を知り、薫をもすがる思いで下を挙げさせていただきました。何か月にもわたり多くの方に相談にのって頂き、ご指導を仰がせていただきました研究授業の準備、授業計画検討会、研究授業日、その後の授業研究会などを通して、在外教育施設において日本語の習熟度の異なる子どもたちがどのような事前準備をすることにより「楽しく学べる」かを模索させていただくことができました。特に、今回の「ウナギのなぞを追って」では、従来の国語の単元として読んだり書いたりすることで終わりがちな学習活動から飛び出し、子どもたちが疑問に思ったことをその専門の研究者に回答やコメントをもらい、また実際に生き物を目の前に子どもたちの興味が高まる様子を目の当たりにすることができ、非常に今後の授業計画づくりの参考になる経験をさせていただきました。今回の研究授業で学ばせていただいた、一つの教科にとどまらない合科、そしてその分野での専門家の先生方の情熱が伝わるような授業づくりを週一回の補習校の授業でも実践していくことで、日本語に触れる機会が限られている在外教育施設でさえも子どもたちが自主的に学習に取り組む総合的な授業づくりが十分にできるということを学ばせていただきました。これを機会に更に多様化する補習校でのニーズに対応した授業づくりの一助となれるよう、多くの専門分野の先生方にご協力頂き、更なる「楽しく学べる」国語の教材開発ができればと願っております。今後とも、ご指導よろしくお願いたします。